

感染症情報 6月5日～11日

府下小児科200療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	1501例(堺市	73例)
②手足口病	741例(堺市	40例)
③溶連菌感染症	703例(堺市	43例)
④咽頭結膜熱	189例(堺市	12例)
⑤ヘルパンギーナ	140例(堺市	3例)

府下インフルエンザ定点307医療機関(堺市29)から

インフルエンザ	43例(堺市	11例)
---------	--------	------

が報告された。

感染症報告数は前週から6.8%増の3,625件であった。報告の第1位は感染性胃腸炎で以下、手足口病、溶連菌感染症、咽頭結膜熱、ヘルパンギーナの順であった。

1位の感染性胃腸炎は府下で前週比1%減、堺市では前週比18%減であった。2位の手足口病は府下で前週比24%増、堺市で18%増であった。定点当たりの報告数は3.7となっていて、北区・都島区などの大阪市北部、守口市・寝屋川市などの北河内、八尾市・東大阪市などの中河内ブロックでは警報レベル開始基準値5を超えている。溶連菌感染症は府下で前週比4%増で、堺市で14%減であった。咽頭結膜熱は府下では前週比2%増、堺市で前週14例→今回12例であった。ヘルパンギーナは府下で前週92例→今回140例で52%増、堺市で前週2例→今回3例であった。

インフルエンザは府下では前週比27%減の43例であったが、堺市では前週5例→今回11例で再び増加した。

麻疹や風疹の報告はなかった。